

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	令和4年度カリキュラム改正に伴う 看護実践能力獲得に関する臨地実習における教授方法の検討				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	山田 紋子
	研究分担者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	田中 範佳
		所属・職名	看護学部・教授	氏名	林 みよ子
		所属・職名	看護学部・講師	氏名	前野 真由美
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	松裏 豊
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	鈴木 郁美
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	中岡 正昭
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	日當 聡
	発表者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	山田 紋子

講演題目	令和4年度カリキュラム改正に伴う看護実践能力獲得に関する臨地実習における教授方法の検討
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>【背景・研究目的】</p> <p>令和4年度カリキュラム改正により、本研究者らが担当する「臨床シミュレーション EBN 実習」(2単位:4年次配当科目)を、保健師看護師助産師学校養成所指定規則上の成人看護学から「看護の統合と実践」(以下、統合実習)に位置づけた。これに伴い、当該実習内容において従来以上にチーム医療における役割遂行能力や臨床判断能力を身に付けられるよう、より洗練させていく必要があると考えた。以上のことから、本研究の目的は、臨床シミュレーション EBN 実習に関する詳細な実習内容および教授方法について検討することとした。</p> <p>【研究方法】</p> <p>第1に、文献検討を行い、統合実習の内容および教授方法の最近の動向と知見を把握した。第2に、同規模(学生数100名以上/学年)の看護系大学の教員2名を対象に、統合実習の内容および教授方法、課題についてヒアリング調査を行った。第3に、第1、第2の結果を基に研究者間で、実習内容および教授方法について検討した。</p> <p>【結果・考察】</p> <p>文献検討およびヒアリング調査の結果、他大学では実習内容としては複数患者の受け持ち、看護管理者のシャドーイング、退院支援看護師のシャドーイング、夜間の実習などが実施されていた。しかし、その多くはシャドーイングや単日の実習であり、学生が深く考え、実践するものは少なかった。</p> <p>統合実習の目的は「チーム医療における看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップの発揮や多職種との連携・協働を学ぶ」「臨床判断を行うための基礎的能力を養う」(厚生労働省, 2020)ことにある。研究者間で検討した結果、その目的を踏まえると、学生自身が実際に臨床判断を行い、チーム医療を実践する現行の当該実習の内容は、シャドーイングや単日の実習より効果的ではないかとの結論に至った。よって今回の検討では現行の実習内容は変更しないこととした。一方で、継続してより有用性のある実習内容および実習方法のあり方について模索していくこととした。</p>